

平成24年度 学内教育GPプログラム事業経費計画書（継続型）

事業名称	多次元的な学士力養成を担う総合的な学修支援のうちの24時間利用できる授業・学修支援システムの整備と定着
取組代表者名 担当者名	代表者：半田 智久
事業内容	<p>本事業は平成21-23年度に大学教育・学生支援推進事業[テーマA] 大学教育推進プログラムで採択された「多次元的な学士力養成を担う総合的な学修支援」の事業期間終了によって、その内容の一部である24時間利用可能な授業・学修支援システムの安定的な利用と定着にむけてソフトランディングさせようとするものである。</p> <p>本事業の具体的な内容は、次のとおりである。</p> <p>(1) 現在、利用可能な授業・学修支援システムとしてmoodleとploneが運用されている。両システムを利用する学生は現在、それぞれ別個のルートでログインしているが、これを学生個人の履修時間割ポータルを作成することで、一回のログイン認証をもってここから一元的に利用できるシステムにする。これにより学生は別個のシステムを意識することなく複数の授業について連続的にこのシステムの活用が可能になる。</p> <p>(2) ploneについてはインターフェースの使い勝手の点で、すでに複数の課題があきらかになっている。これらについての改善をおこない問題解決にあたる。その結果、現在使いづらいと感じている多くの点が改良される。</p> <p>(3) ploneについては、常時利用の教員数で20名程度、利用学生数は約1000名という状況にあるが、この3-4倍程度に利用者が増えた状態を想定して、その場合の操作反応性を落とさずに運用するための負荷分散の方途を確立する（その目処は立っている）。これによりシステム活用推進によってユーザー数が増え、その結果引き起こされるシステムの反応低下を未然に防ぐことができる。</p> <p>(4) 2011年度末に本学の学修支援体制に関して学生に対する質問紙調査が計画されている。その内容にこの授業・学修支援システムに対する認知や利用に際しての改善点等を問う質問も設定する。その結果を受けてあきらかになる改善課題を解決し、より利便性の高いシステムに仕上げ、またFDのテーマ設定に役立てる。</p> <p>(5) moodleおよびploneの連携的な活用や定着を促進するため、利用説明会や教員・学生による活用事例報告などのFDセミナーを引き続き定期的実施していく。</p> <p>以上、主として5項目の事業内容を平成24年度に推進し、達成する。これにあたり、その専従補助作業にあたるマンパワーとして下記のごとくアカデミック・アシスタント1名、週1日6時間程度で1年間を必要とする。</p>
事業期間終了後の計画	<p>本事業期間終了後、この24時間利用可能な授業・学修支援システムは現状の改善課題のほとんどを解決し、利用の定着が図られたかたちで活用されていることが見込める。また、少なくともploneについてはさしたる経費を要することのない状態（多くの課題をクリアしている）ので、本事業で要する経費以下で引き続き運用していくことができるはずである（そのように整備を進める）。</p>